

やくおう じ しらひげじんじゃ 薬王寺白髭神社

古賀市薬王寺 1120 番地

薬王寺区^{うぶすながみ}の産土神である本社は、薬王寺集落の東端、椎・檜・椿などの照葉樹と椋^{むく}の木の林の中に所在し、北側の溪流を遡れば薬王寺温泉へ、中途から右へゆけば薬王寺廃寺があります。



祭神

ざるたひのみこと おおさきぎのすめらみこと
猿田彦命、大雀天皇（仁徳天皇のこと）と『福岡県神社誌』

にあります。

『筑前国続風土記附録』には、「白髭宮は、産土神なり、猿田彦命をまつる。鎮座の初め詳らかならず。」とあり、神社の宝永7年（1710）の棟札には、若八幡宮と白賀大明神^{しら が だ い み ょ う じ ん}の名がみえます。また、全国の村の鎮守級の神社神職の任免権を持つ吉田家から、社家の大司家への正徳4年（1714）の許状にも白賀大明神と記されていますので、この白賀大明神が白髭神社の原号であったと考えられ、薬王寺には小字の中にシラガ田も残っていることがそれを証しているといえるでしょう。（『古賀町誌』）

本社はもと、現在地の南の社家尾の山上にありましたが、長元9年（1036）7月、山上^{ちやうげん}に異変があったことなどが伝えられています。現在の神殿は、棟札の時のものと考えられます。神殿とその彫刻は市内で最も古く、龍の彫刻・麤股^{かえるまた}の鹿や五位鷺^{こい さ ぎ}の彫刻・象の木鼻^{きばな}・



▲龍の彫刻（阿）



▲龍の彫刻（吽）

えびこうりょう げぎょ 海老虹梁・懸魚など優れた建築の技が随所に見られます。特に阿吽の龍は背中に鱗ひれがあり、薦野あまふりじんじやの天降神社のよりわずかに10年前のものですが異色です。

境内にはもと薬師堂がありましたが、明治維新の廃仏毀釈の際、近隣の東前寺へ移されました。現在も10月のお祭りの御神幸の前にお参りする習わしです。

その他境内には古い井戸（神泉）の跡や宝永4年（1707）の銘のある手水鉢めいも残っています。また絵馬には、郷土の絵師薄景月画になる、乃木大将とステッセルの「水師営会見図」（明治44年（1911））等があります。



▲宝永7年の棟札



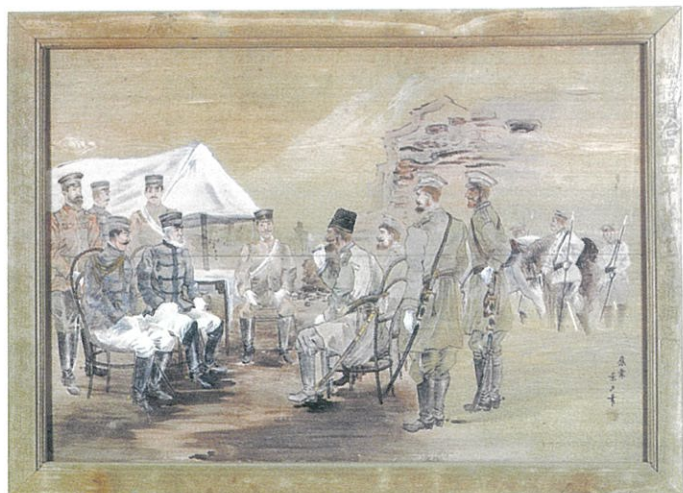
▲墓股のごいさぎ（左）と鹿（右）



▲手洗鉢



▲薬師如来坐像（現在、東前寺境内に祀られている）



▲水師営会見図